

# 学習障害のある児童が見せる 臨床症状の経年的移り変わり

～発達クリニックでの継続した支援を通してみる義務教育期間中の移り変わり～

- 企画： 藤岡 徹(福井大学/平谷こども発達クリニック)
- 司会： 石坂 郁代(北里大学医療衛生学部)
- 話題提供者： 石坂 郁代(北里大学医療衛生学部)
- 河野 俊寛(金沢星稜大学)
- 伊藤 一美(星槎大学大学院)
- 山口 大輔(平谷こども発達クリニック)
- 指定討論者： 藤岡 徹(福井大学/平谷こども発達クリニック)

# 平谷こども発達クリニック



- 平成13年(2001年)に開設した「発達外来」と「一般小児科・アレルギー科」が併設
- 発達外来では、以下を実施
  - 医師→発達障害の診断・処方など
  - 言語聴覚士、作業療法士、心理スタッフ
    - アセスメント、個別/小集団指導、保護者相談など
- 幅広い分野の専門家を招き、児童の問題に対応

# 平谷クリニックでの業績

- 藤岡・石坂・河野ら(2014)

発達性ディスレクシアと診断された児童の併存症と初診時の主訴の検討、LD研究23、p340-346



- 藤岡・村田・石坂ら(2015)

発達性ディスレクシア児の学習面での問題に対する教員の認識についての検討～注意欠陥/多動性障害と広汎性発達障害の併存が与える影響について～、LD研究 24、347-355

# 年齢による臨床像

	1~2年生 33名	3~6年生 22名	
	15	9	
	4	2	
読字関連	2	3	
文章の勝手読み	1	3	1~2年<3~6年
文章の理解が困難	3	0	1~2年>3~6年
拾い読み	3	0	
	8	4	
書字関連	1	4	1~2年<3~6年
文や文字の視写が正確に出来ない	3	0	1~2年>3~6年
ひらがなばかりの文を書く	0	3	1~2年<3~6年

- (統計的な有意差はないが)

学年によって目立つ臨床像が異なるようであった。

# 年齢による臨床像

	1~2年生 33名	3~6年生 22名	
	15	9	
	4	2	1~2年 > 3~6年
読字関連	2	3	
	1	3	
	3	0	
	3	0	
	8	4	
書字関連	1	4	1~2年 < 3~6年
	3	0	
	0	3	

- (統計的な有意差はないが)

学年によって目立つ臨床像が異なるようであった。

# 本シンポジウムでは

## 話題提供

石坂先生、河野先生、伊藤先生より

読字障害(困難)、書字障害(困難)、計算障害(困難)について

- 「臨床像の経年的移り変わり」と、それに対する支援や配慮
- 特に、ADHDや自閉スペクトラム症などが併存した場合

山口先生より

- クリニックでの事例や検査結果について

## 指定討論

藤岡より